

令和5年度 学校経営の具体的な取組【学校評価書】

成長 感動

岡山県立総社南高等学校

学校経営計画の具体的な経営目標・計画		
(1)	学校設定教科「表現」の実践・研究 ① 「表現Ⅰ」の着実実施と課題の改善	② 人文表現、理数表現、国際表現、美工表現の実践と検証 ③ 一人一台端末iPadの利活用の実践と普及
(2)	授業改善と学力向上の取組 ① 学習評価（観点別評価）の研究・実践	② 進学指導を意識した系統的な取組の実践と改善 ③ 一人一台端末iPadの利活用の実践と普及
(3)	安心・安全な教育活動の保障 ① 多様な個性に配慮した教育支援体制と規律を意識した生活指導の実践	② 校内美化と環境整備 ③ 災害に備えて、主体的に行動する防災体制の実践
(4)	地域・社会に開かれた学校づくりの推進 ① 人文、理数、国際、美術工芸の特色づくりと情報発信	② 地域、社会に貢献する活動の実践 ③ PTA、同窓会（創立40周年に向けて）との連携・強化
(5)	働き方改革への取組 ① 個人のできる工夫・実践	② 課、学年・年次、教科等でできる工夫・実践 ③ 学校全体のできる工夫・実践

達成評価	
評価	目安
A	達成基準を上回った
B	ほぼ達成基準どおり
C	達成基準を下回った
(○は数値評価、●は取組評価)	

番号	主たる担当	具体的方策	方策の評価指標・達成基準	中間期		年度末		
				達成状況	評価	達成状況	評価	
(1)	① ③	教務課 表現力育成委員会	・昨年度の「表現Ⅰ」の実践内容を振り返り、課題等を改善、発展させた内容を計画、実行することで、生徒の表現力をより一層向上させる。「表現Ⅰ」と「総合的な探究の時間」を有機的に結び付け、生徒に主体的な学びや対話的な学びを身に付けさせる。	○「表現Ⅰ」に関する生徒アンケートを行い、「表現力が向上した」「身に付いたことが、総合的な探究の時間で活用できた」「1人1台端末を有効に活用することができた」の各項目において、肯定的な回答がそれぞれ70%以上である。 ●今年度の「表現Ⅰ」と「総合的な探究の時間」の実施内容計画表（年間）を作成し、1年次団に提示して実践を促すとともに、課題等を随時改善していく。	○1学期末に行った「表現Ⅰ」に関する生徒アンケートでは、「表現力が向上した」「身に付いたことが、総合的な探究の時間で活用できた」「1人1台端末を有効に活用することができた」の各項目において、肯定的な回答はそれぞれ88.9%、83.4%、89.9%であった。 ●年度当初に作成した「表現Ⅰ」と「総合的な探究の時間」の実施内容計画表（年間）を、1年次団が実践中であり、課題等を検証中である。	B	○2学期末に行った「表現Ⅰ」に関する生徒アンケートでは、「表現力が向上した」「身に付いたことが、総合的な探究の時間で活用できた」「1人1台端末を有効に活用することができた」の各項目において、肯定的な回答はそれぞれ94.1%、94.1%、96.8%であり、1学期末よりも上昇した。 ●「表現Ⅰ」と「総合的な探究の時間」の実践を随時振り返り、内容を修正しながら実践することができた。	A
	②	人文系	・創作活動や探究活動を盛り込んだ「人文表現」の実践を通して人文科学に対する関心を高めさせ、専門性の高い校外研修での学びや具体的な進路選択につながるようにする。	○生徒アンケートにより「自分の思いや考えを表現する力が向上した」などの肯定的な評価を、70%以上の生徒が回答する。 ●「言語文化」や「歴史総合」の内容を発展的にさせた形で実践し、その成果を踏まえて、来年度以降の「人文表現」の授業内容と計画を作成する。	○生徒が主体的に表現する姿がみられ、講座に対する取組も前向きである。2学期に授業に関する生徒アンケートを実施予定である。 ●創作グループ活動やフィールドワーク、レクリエーションなど、特色ある教育活動ができた。今後は防災をテーマとする探究活動などを予定している。	B	○生徒アンケート4項目の肯定的回答平均値は95.9%だった。地域へのフィールドワークや創作活動、防災に関する研究など、人文科学の学びを深める活動に対し、生徒が新鮮な気持ちで前向きに取り組んだ結果と思われる。 ●生徒自身の主体的な活動が随所にみられ、自分の思いや考えを表現する力だけでなく、自ら課題を発見し解決に向けて行動しようとする姿勢がみられた。来年度は、年間指導計画の精度を高め、生徒の潜在能力をより引き出す展開を試みてみたい。	A
		理数系	・表現活動（アウトプット）に焦点を当てた「理数表現」の実践を通して、生徒に数理的・科学的な表現力を身に付けさせる。	○生徒アンケートにより「数理的・科学的な表現力が身に付いた」と70%以上の生徒が回答する。 ●理数の各科目の特性を生かしたアプローチができているかを検証しつつ、来年度以降に続く教科「理数表現」の実践を行う。	○アンケートは2学期中に実施予定。 ●1学期は数学・情報をテーマとした授業を展開した。データ処理や分析等の基本的な内容をタブレットを活用しながら生徒が主体的に取り組む様子が見られた。2学期以降は理科に関するテーマで授業を展開していく。理数講演会も理数表現の授業の一環として実施する予定である。	B	○生徒アンケートで「数理的・科学的な表現力が身に付いた」と回答した生徒は91.0%であった。 ●「理数表現」1年目で理数系教員が協力して実施できている。理数系講演会を「理数表現」の授業の流れの中で実施することができた。アンケート結果から今年度の目標は達成できているが、来年度に向けて振り返りさらに発展させていきたい。	A
		国際系	・姉妹校との交流を軸に、スピーチ・ドラマ・プレゼンテーションなど様々な表現活動を「国際表現」で実践・検証し、本校の国際系として特色ある授業内容を研究する。	○「国際表現」に関する生徒アンケートを行い、「英語で表現する力が付いた」などの肯定的な回答が70%以上である。 ●「国際表現」の授業公開を通して、実践内容を共有、発展させて次年度の「国際表現」の授業内容と計画を作成する。	○「国際表現」の授業では、スピーチ、プレゼンテーション、ドラマなど様々な表現活動を実施した。生徒の授業アンケートでは、89%の生徒から好評価を得た。 ●主にパフォーマンスを中心とした評価の方法を共有・研究し、来年度に活かせるようにしていきたい。	B	○英語字幕日本語翻訳ボランティア活動や総社市の日本語教室ボランティアに参加するなど活動の幅が広がり、「国際表現」の授業では、主体性、表現力、気づきにつながる、の3項目の平均値は全て90%以上だった。 ●生徒の表現活動への取組は主体的である。生徒の活動が直接社会とのつながりを感じさせる活動の機会が提供でき、学ぶ姿勢に好影響を与えている。評価についての共有や業務の分担などの改善が今後の課題である。	A
		美工系	・生徒の課題意識に応じて、専門的な知識や技術を鑑賞と表現の活動を中心に学ばせる。絵画写生合宿や作品展など、社会と交わる場を作ることで、芸術と社会の結びつきを考えさせ、高い作家性を育む。	○「美工表現」に関するアンケートを行い、「芸術表現に対する知識や技術、社会的意識が深まった」などの肯定的な回答が70%以上である。 ●「美工表現」の授業内容を計画するに当たり、毎年の美工行事の流れや「素描(2年)」の内容を検証し、より効果的になるよう次年度以降の「美工表現」の授業内容と計画を作成する。	○「美工表現」に関するアンケートをまだ行っていないので評価できないが、芸術表現に対する知識や技術は向上しているのが作品や授業後のワークシートなどから見て取れる。社会的な意識の深まりについては課題が残る。 ●次年度以降の「美工表現」の授業内容はまだ考えられていない。	C	○「美工表現」に関して対面で聞き取りを行った。「芸術表現に対する知識や技術が深まった」と回答した生徒は100%だった。また、「社会的意識が深まったか」という問いかけに「深まった」「やや深まった」と回答した生徒も100%だった。 ●達成基準はクリアできたが、1年次の表現とのつながりはまだ改善の余地がある。3年間だけでなく、その先までの見通しを持った指導を行いたい。また、社会的な意識をもっと持たせる働きかけが必要だと感じている。	A
(2)	①	教務課	・昨年度作成した観点別評価の申し合せ事項について、昨年度の実践を振り返り、課題等を改善、研究し、より効果的な観点別評価を提示する。観点別評価により、生徒が自らの学習を改善するとともに、教員が指導を改善し、今まで以上の学習効果が得られるようにする。	○学校評価アンケートにおいて、「学力向上に向けて、学校全体で取組がなされている」の項目の肯定的な回答が昨年度を上回る（昨年度：生徒93.0% 保護者81.0% 教職員88.4%）。 ●研修会等を通じて、ランドデザインにある6観点のルーブリックを作成する。	○6月に「Jami学習スタンダード」を取り入れた授業展開を意識した授業公開期間を設け、授業改善に取り組んだ。また、生徒に対して授業評価アンケートを実施し、結果を全教員で共有した。 ●研修会等を通じて、ランドデザインにある6観点のうち、「創造力」「協働力」「実行力」の行動指標を作成することができた。	B	○「Jami学習スタンダード」を取り入れた授業展開を意識した授業公開期間、生徒に対する授業評価アンケートをそれぞれ6月、11月の2回実施し、結果を職員会議で共有した。なお、生徒に対する授業評価アンケート（11月）において、先生の授業についての項目で肯定的な回答に3つ以上○のあった人数の割合は97.5%だった。学校評価アンケートにおいて、「学力向上に向けて、学校全体で取組がなされている」の項目の肯定的な回答は、生徒93.8% 保護者85.6% 教職員85.4%であった。 ●10月の研修会で残りの3観点について検討を行い、原案を作成した。これをブラッシュアップし、12月に6観点全ての行動指標が完成した。	B
	②	進路課	・生徒・保護者・教員に対する有益な情報提供をする。 ・2年次10月に行うミニ進路検討会を充実させる。 ・1年次系・科目選択ガイダンス時に保護者職業講演会を実施する。	○各学年においてclassroom、Classiにて、生徒には年間20回以上、保護者には年間10回以上、進路情報を提供する。 ○保護者5名以上に講演していただく。 ○学校評価アンケートにおいて、進路課の取組に対して理解を示してくれた保護者の割合が昨年度（82.2%）よりも上昇する。 ●2年次10月のミニ進路検討会において、担任はクラス生徒の状況を報告し、学年で情報を共有する。	○「進路通信」など発行の際はClassiを利用して保護者に配信しており、継続していきたい。 ○保護者職業講演会に変えて、看護系講演会を実施し、今後も各種講演会を計画予定している。 ●進路検討会においては最新の情報を共有し、生徒の希望や状況と共有することができた。進路実現に向けて今後も継続していく。	B	○生徒向けには進路情報を1年生52回、2年生57回、3年生28回、保護者向けには進路通信などを1年生13回、2年生6回、3年生7回配信した。 ○保護者職業講演会に代えて、看護系講演会、ワークショップを各1回実施した。 ○学校評価アンケートでは、進路課の取組に対して理解を示くださった保護者の割合が昨年度に比べて1.5%上昇（83.7%）した。 ●説明会等では、随時保護者が見られるように動画をアップした。 ●進路最新情報フォルダを作成し、国公立大学の過去問・直接聞いた入試情報・令和6年度入試の動向をアップし、見られる状況にしている。 ●2年次10月にミニ進路検討会を実施し、年次団で情報を共有することができた。	B
	③	教務課	・ICT活用提案を通じて、担任や教科担当の指導力向上を支援し、生徒の安全と学力維持のための系統的で効率的な指導を実現する。	○年間3回以上のスキルアップ研修を行う。 ○年間5つ以上のICT活用提案を行う。 ●デジタルシティズンシップ教育の実践事例を蓄積し、3年間の指導計画、カリキュラムを作成する。	○ClassiやGoogle Workspaceの研修を3回行った。 ○Jamboard、Google Slides、Classiなどの提案を行った。 ●年度当初にガイダンス、1学期中に生徒主体のワークショップを2回実施した。また岡山スマホサミットで生徒が実践報告を行っている。	B	○Google Calendarや生成AI(Chat-GPT)等のスキルアップ動画を5本作成した。 ○Google Calendarや生成AI(Chat-GPT)等の活用提案をした。 ●年度当初にガイダンス、生徒主体のデジタルシティズンシップワークショップを1学期中に2回、2学期中に1回実施した。また岡山スマホサミットで生徒が実践報告を行った。生成AIの利用に関するガイダンスを2年次に実施した。	A

学校経営計画の具体的な経営目標・計画		
(1)	<b>学校設定教科「表現」の実践・研究</b>	
	① 「表現Ⅰ」の着実実施と課題の改善	② 人文表現、理数表現、国際表現、美工表現の実践と検証
		③ 一人一台端末iPadの利活用の実践と普及
(2)	<b>授業改善と学力向上の取組</b>	
	① 学習評価（観点別評価）の研究・実践	② 進学指導を意識した系統的な取組の実践と改善
		③ 一人一台端末iPadの利活用の実践と普及
(3)	<b>安心・安全な教育活動の保障</b>	
	① 多様な個性に配慮した教育支援体制と規律を意識した生活指導の実践	② 校内美化と環境整備
		③ 災害に備えて、主体的に行動する防災体制の実践
(4)	<b>地域・社会に開かれた学校づくりの推進</b>	
	① 人文、理数、国際、美術工芸の特色づくりと情報発信	② 地域、社会に貢献する活動の実践
		③ PTA、同窓会（創立40周年に向けて）との連携・強化
(5)	<b>働き方改革への取組</b>	
	① 個人のできる工夫・実践	② 課、学年・年次、教科等でできる工夫・実践
		③ 学校全体のできる工夫・実践

達成評価	
評価	目安
A	達成基準を上回った
B	ほぼ達成基準どおり
C	達成基準を下回った
(○は数値評価、●は取組評価)	

番号	主たる担当	具体的方策	方策の評価指標・達成基準	中間期		年度末	
				達成状況	評価	達成状況	評価
(3)	① ② ③ 生徒課 厚生課	・定期的に生活指導情報を流し風紀の乱れを未然に防ぐことで、生徒の規範意識を向上させ人間力の成長を促す。 ・主体的に行動する防災体制の実践	○学校評価アンケート項目4番において、教職員及び保護者の80%以上が肯定的な評価をする。 ○学校評価アンケート項目8番において、80%以上が肯定的な評価をしている。（安全で機能的な施設、設備） ●ルール及びマナーが守れない者に対して、全教員と協力し迅速に対応する。 ●年2回（7月、12月）の避難訓練において生徒アンケートを行い主体的な姿勢を育て、改善点を把握する。垂直避難訓練を行う（12月）。	○アンケートは年度末に実施予定。外部からの情報や苦情に対して終礼連絡や集会、校外交通指導でその都度注意喚起を図り、生徒の規範意識の醸成につながっている。 ●多様な個性への配慮と同時の生活指導の実践は、教員間の連携が重要であり、各学年・年次において生徒課教員を中心に継続的指導ができています。 ●7月に火災避難訓練を行った。天候の影響で2年連続体育館へ避難となった。消防署の方の講評、自己評価アンケートから、避難の様子に対して緊張感にやや欠ける面があると反省があった。また、避難訓練の際に緊急放送の不具合も指摘された。今後改善できるよう、事務局と相談したり、生徒に働きかけていきたい。	B	○学校評価アンケートで、肯定的な回答は教職員が68,3%、保護者が75,1%だった。外部からの苦情が10件全てにおいて教員による校外交通指導での対応及び終礼連絡にて生徒全体へ注意喚起を促し、規範意識を高めることができた。 ●生徒指導に関しては、ルール及びマナーが守れない件について終礼連絡で全体へ周知した上で、学年・年次会議等で教員間の共通理解を図り、教育相談的な配慮をした上で適切に指導できた。 ●避難訓練の際に緊急放送は不具合ではなく、システムの違いであることがわかったため、切り替える必要である。12月に行った避難訓練を通して、実際に運用面で不具合があるか検証した。点検箇所具体的な指示や、生徒の点呼報告の仕方、放送機器の使用法など、工夫すべき点があることが分かった。年に2回訓練することで、教員も、生徒の意識向上につながった。まだ不十分な点もあるが、意識することが大切であるので、今後も改善に向けてアンケート記入などをさせながら、主体的に考えて行動できるよう働きかけたい。	B
(4)	① 総務課	・本校の教育活動全般について、学校案内、学校ホームページ、ブログ、みなみNEWSなどで内外へ積極的に配信する。	○中学3年生の進学希望状況第1次調査における本校志願者が、定員の1.3倍以上になる。 ○広報行事のアンケート結果で、肯定的な回答が9割以上になる。 ●ブログで日々の教育活動をこまめに配信する。	○夏季オープンスクールの参加者アンケートの結果で、参加してよかった、本校の取り組みがわかったという回答が9割以上になった。今後の秋季オープンスクールや学校説明会等で広報活動にさらに力を入れ、中学3年生の本校進学希望率を上げたい。 ●ブログで日々の教育活動を配信できている。	B	○中学3年生の進学希望状況第1次調査における本校志願者が、定員の1.38倍であり、目標を達成することができた。 ○オープンスクールの参加者アンケートをはじめとする総務課行事のアンケートでは、参加してよかったという意見が参加者の98.9%、本校の取組がよかったという意見が参加者の98.7%になった。 ●学校案内、学校ホームページ、ブログ、みなみNEWS、学校紹介動画、メディアなど、様々なツールを用いて定期的に学校内外へ本校の教育活動の情報を発信することができた。	B
	② 生徒課 社会貢献活動推進委員会	・社会貢献活動を通して、感動的な体験をさせる機会を提供し、単位認定へ向けた意識付けへつなげる。	○学校評価アンケート項目5番において、生徒の90%以上が肯定的な評価をする。 ●活動を通して、貢献の本質や充実感を実感させるなど、動機付けになる情報を積極的に提供する。	○アンケートは年度末に実施予定。活動内容や種類、事業所の増加など準備段階から工夫できている。 ●コロナ禍で活動自粛の流れがあったが、様々な活動ができるようになり、昨年以上に充実した活動内容や機会の増加が生徒の達成感につながっている。	A	○学校評価アンケートでは、生徒の肯定的な回答が98.4%だった。また、現在までの社会貢献活動の実績は、事業所が52、総数で165件となり、昨年度から大幅に増加した。 ●活動実績がコロナ禍以前の状態となり、活動の幅が広がるだけでなく内容の充実が図られ、昨年以上に個々の充実感や達成感につながった。	A
	③ 総探委員会	・地域の大人と直接に社会の課題について聞き取る機会を設けて未来探究を深める。 ・挨拶と礼儀を大切に、校内外で適切な態度と社会に適応する力を身に付けられるよう指導する。	○探究活動に関する発表会・コンテストに5グループ以上が参加する。 ●地域・社会の課題について講師に来てもらったり、現地で聞き取る機会を複数回設ける。 ●地域の大学や自治体と連携した事業を複数グループで行い、地域課題に取り組む。	○企業との話し合いBeLiveに2名が参加した。高校生探究フォーラム2023（12/26）に2グループが参加予定である。 ●複数の企業や大学を訪問して取材を行うことができた。今後も予定している。 ●いくつか提案したものもあるが具体的な連携に至った活動はない。	C	○県ロボットアイデアコンテストへ1グループ、県探究フォーラムへ2グループ、BeLiveへ1グループが参加した。今後は、3月の岡山大学の発表会に1チーム、5月の岡山県立大学の発表会に4チーム程度が参加を希望しているなど、校内成果を対外的にも発信できた。 ●6グループが企業を訪問しており、県内3大学に助言を受けるなど協力体制に向けて動き出せた。 ●岡山県大祭でパネルディスカッションに参加したり、総社市役所とLGBTQ+理解の取組や外国人支援で連携するなどの活動を始めた。	A
(5)	③ 教頭 総務課	・準備委員会（校内小委員会）を立ち上げ、校内組織づくりと事業計画を進める。（前半期） ・同窓会長とPTA会長を招へいし、事業計画案について協力と理解を得る。（後半期）	●記念事業内容、予算組みの見込みが立つ。（年度末） ●準備委員会が発展的に解散し、順調に実行委員会が発足する。（次年度当初）	●10月初旬に準備委員会（校内小委員会）を立ち上げ、校内組織づくりと事業計画を順次進める。 ●同窓会、PTAとの接点を増やし、事業計画案について理解と協力を得る。	B	○2学期に学校ボランティアを立ち上げ、11月に2回実施した。（参加者の延べ人数22名）今後、広報にも注力して参加人数を増やし、同窓会、PTAとの連携を更に深めたい。 ●10月に校内小委員会を立ち上げて、式典日時と記念行事について協議を開始した。予算の見直しを立てた上で、年度内に準備委員会、次年度に実行委員会を開催する見込みである。	B
	① ② ③ 教頭 運営委員会	・アフターコロナによる学校内部のルールや慣習の見直しと校務DXの推進により、教職員の負担軽減と働きやすさの向上を図る。	○ストレス調査結果で、「仕事の負担」、「心身の健康度」等の要素数値が概ね全国平均を上回る。 ●校務のみならず、授業や指導におけるICTの有効活用場面が増える。	○ストレス調査結果は10月初旬に学校に届く予定。調査結果は教職員で共有する。 ●校務では、Google Workspaceの活用が定着しつつある。授業の活用度は、1学期末実施のICT活用調査結果で1・2年次とも県内第2位。	B	○ストレスチェックの集団分析結果で、「個人と職場の健康いきいき度」は全国平均や県内高校平均より良い結果だった。また、「心身の健康問題が生じるリスク」は全国平均や県内高校平均よりリスクが低めだった。 ●総探、表現Ⅰの授業で活用度が高い。また、校務DXに向けて設備の整備に着手した。（職員室にディスプレイ設置）	A